

特別講演

11/18

木

開会式

基調講演

パネルディスカッション
メインテーマ

鎌倉の取組紹介

パネルディスカッション
サブテーマ①



特別講演

令和3年11月19日(金) 13:00 ~ 14:30

選択肢を増やそう

乙武 洋匡 氏 作家

11/19

金

パネルディスカッション
サブテーマ②

パネルディスカッション
サブテーマ③

引継式

特別講演

パネルディスカッション
まとめ

作家の乙武洋匡さんから、多様性についてご講演いただきましたので、その概要を報告します。

●多様性というと、「差別や偏見をなくそう」と言われるが、言葉の意味は同じようで違う。偏見は心や気持ちの問題、考え方のこと。差別は偏見に基づいて、特定の人々だけ低く扱うこと。偏見を解消することは、人の考え方に踏みこむことになるので難しいが、差別はなくせる。「ダイバーシティ&インクルージョン」もそうだ。ダイバーシティは偏見を持つことなく、いろんな人がいることに想像力を働かせ、あらゆる価値観、それぞれの違いを認めること。インクルージョンは正当な理由なく排除されてきた人々を社会の包摂していくこと。

●LGBTQや発達障害や海外ルーツといった、見た目にはわからないけれど違いのある人への配慮や対応にも課題が多いが、物理的なバリアフリーについても、まだまだ多くの課題がある。古い施設はともかく、新しく整備された場所で配慮がなされていないことがある。また、日本で生まれ、日本の文化・風習が身につけている日本国籍の人であっても、海外にルーツがあり、見た目だけで外国人と判断され、不動産屋で断られてしまうこともある。

●多様性への理解を進めるには、進めることで多くの人に不便や不利益が生じるかもしれないことを理解することが大切である。誰かを排除することで不当に安くできていたものについて、すべての人が利用できるよう元に戻すには、多くのコストがかかるものと理解する必要がある。ここで、誰に

も不便や不利益が被らない形で進めていくためのひとつの解決策として、テクノロジーを活用することを提案したい。

●吉藤オリィさんが発明した OriHime という遠隔操作ロボットの働くカフェでは、ロボットのカメラ、スピーカーを通じて、障害や難病を抱えた寝たきりの人が自宅や病院などのベッドから遠隔で接客している。テクノロジーを活用することで、これまで働くことを諦めていた重度障害者や難病の方に、「働く」選択肢ができたという意味で、素晴らしい取組だ。しかし吉藤オリィさんにいわせると、これはハイテクではなく、ラジコンの延長のむしろローテクな取組であり、これまでに足りなかったのは、課題を解決するアイデアや発想であるとのこと。

●実は私は、新型コロナウイルス感染症拡大により、皆さんにとっての当たり前だった社会生活が失われたことに対して、複雑な思いを抱いてきた。社会的マイノリティの人々は、もともとそういった当たり前の社会生活を送ることに困難を抱え、状況を変えてほしいと声を上げてきたが、まったく変わらなかった。しかし大多数が同じ困難に直面したとたんリモートワークやオンライン教育や食事のテイクアウトやライブ配信が一気に進んだ。マイノリティが願っても叶わないことをマジョリティが願うと叶うということに、私は複雑な感情を抱いた。

●このところ、社会はまたあの頃の日々を取り戻しつつあるが、そこに戻れない人たちもいることを是非覚えておいてほしい。そして、コロナ禍によって新たにつくられた

様々な社会参加の選択肢について、それがないとどうしても困るという人たちを社会に包摂していくために、今後も残し、さらにテクノロジーを使ってもっと増やして行ってほしい。選択肢を増やすことで、自分らしく生きられる人が増え、その人のライフスタイルや価値観がきちんと保障されながら、一人ひとりが幸せに、自分に合った生き方ができるようになることが、非常に望ましいことだと考えている。

- 日本は同調圧力が強い国といわれるが、私の大好きな鎌倉のまちにおいては、気づかぬうちに“当たり前”を押し付けていないか、誰かを排除していないかに目を配りながら、選択肢がいっぱいある、違いのある一人ひとりが自分の人生を輝かせることができる社会を築いて行ってほしい。

※講演内容は、本人の希望により概要のみとさせていただきます。

※この概要は第3回地域共生社会推進全国サミット in かまくら実行委員会事務局で作成し、乙武氏により確認を行いました。